

# 社 会 基 盤

社会基盤(テーマ 新しい市が誕生したときに、「自慢したい」、「残したい」、「くふうしたい」ものは？(政策、住民の取り組み、場所、祭り等々))

	市町村名	年齢	性別	提 言
1-59	川内市	30	男	バスの均一運賃 合併に合せ路線バス網の見直しが必要
1-74	川内市	48	男	2市4町4村の枠組みは、県下第2の拠点堵市として、新幹線、西回り、広域港湾、川内川をもち、甑島の観光漁港海洋深層水など、発展性が豊かで、地の利として東海圏に向かっている。川内港と串木野港を一体化し、背後の交通アクセスを整備することにより、農林業も振興を図る。
2-115	串木野市	35	男	日本一のITネットワーク都市にする。
6-10	祁答院町	34	男	現在、工事中の新幹線には特に期待を寄せております。
6-19	祁答院町	60	男	高齢者等の交通手段の確保が必要、新市の中心部とのアクセスはもちろんだが、旧町村間を運行するミニバスは存続する。年に一度、全旧市町村の伝統芸能祭を披露する「伝統文化の祭典」を開催する。
6-20	祁答院町	48	男	高齢者で自動車免許を持っていない方も多いため、祁答院バスの運行存続を希望する。祁答院町から川内市まで用事のある方但し、免許がなく車を所有していない70歳以上にはタクシー乗車券の配布検討はいかがでしょうか。
6-7	祁答院町	51	男	高齢者、学生の交通の便の確保
8-7	上甑村	35	男	・残したいこと…バス企業団による住民の交通手段の確保 …村立診療所のバスによる患者送迎 ・自慢したいこと…カギをかけなくても安全な治安のよさ …交通死亡事故ゼロの連続記録
11-19	川内地区 消防組合			恵まれた資源を最大限に生かし、環境に配慮したまちづくりをして欲しい。公共工事等も自然破壊ではなく自然再生(例えば堤防の二重化など魚の住める川作りなど)を目指してほしい。 また、これまでの各市町村の伝統・文化を尊重し中央集権的なまちではなく、自治区単位の独自性を残してほしい。(区長制を導入し、それぞれの区民祭や体育行事等の継続的实施など)
11-20	川内地区 消防組合	26	男	各地に残る無形文化財の存続と発展。川内大綱引き、竜宮伝説フェスティバル、甑大明神マラソン、東郷梅マラソンなど 陸・海の交通手段の改革。甑島フェリー、シーホーク等時間等の改善と増便
11-55	川内地区 消防組合	43	男	「災害に強い街づくり」。良く耳にするフレーズです。川内市は過去、川内川やその支流が氾濫する大規模な水害や土砂崩れ、台風による災害により多くの人名と財産が失われてきました。又、原子力発電所が立地し、防災面では一般的に「危ない市」というイメージがあると考えます。特に原子力防災については、「絶対事故は起こらない」という方針から、東海村臨界事故を契機に「起こるかもしれない」というスタンスに変わり、原子力特別措置法の施行やオフサイトセンターの建設等、現実のリスクを注視するようになってきました。災害の捉え方は、アメリカでは「いつ起きても」。日本では「もし、起きたら」という具合に危機管理に対する考え方について大きな開きがあります。原子力発電所について内容や事故を正しく理解している市民はそう多くないと考えます。市の主管課や県では、広報誌などを通じての周知の努力をされていますが限界があります。そこで、原子力災害を想定した「原子力防災館」の建設を提言します。原子力災害のあらゆる事故をシュミレーションできる設備を備え、事故の範囲と程度を五感で学べる防災館の建設です。なぜ、災害時にヨウ素材を投与するのか、防護服の役割は、防護マスクの有効性などを実際に体験するのです。不安を煽るのではなく、不安を直視し、そこから実際の災害では自分たちに何が出来るかを考えてもらいます。災害時の対応はハードよりソフトが有効と言われます。つまり、原子力防災について正しい知識を持った人を育てることにより、住民の不安を払拭し、原子力発電所と共存するのです。そういう人材は、他の災害でも地域のリーダーになり、自主防災組織の結成や充実といったプラスの波及効果も期待できます。災害が起こるのは「When」であることを忘れず、日本で最初の充実した防災館建設を提言します。
11-75	川内地区	44	男	伝統的なものを継承し、新市が誕生することでなくならないよう住民自ら盛り上げ、公共機関等のバックアップで後世に受け継いでいけるような下地をつくるのが肝要では。

	消防組合			
17-4	甑島衛生管理組合	41	男	今の里村の住民は、婦人会、子ども会、青年団・・・など色々な取り組みをおこないそして、がんばっていることに自慢しそして、このまま続けていってもらいたい。
9	個別応募: 川内市	4	女	自慢したいもの:古くから、政治・経済、交通の中心地であったこと。 残したいもの:各地の地名や伝統・文化 伸ばしたいもの:中国・東南アジアに近いという地理的優位性。 工夫したいもの:新市域内の移動距離・移動時間の短縮化。

**社会基盤 (テーマ 「魅力あるまち」「活気のあるまち」「幸せを実感できるまち」にしていくためには、何が大切で、何をしたらよいと思いますか?)**

	市町村名	年齢	性別	提言
1-5	川内市	52	男	各市町村は行政情報等の伝達について、さまざまな手段を持っている。甑島を含む広域合併となる当地区においてはこの伝達手段が重要となってくる。適当なキャパシティを持ち新幹線開通となる今こそ、まちに活気をもたらすこととなるミニFMを開局し、インターネットとの相互活用を図ることが重要である。
1-16	川内市	51	男	いつでもどこでも誰とでも行き来できる手段の構築 舟便 湊唐口から甑島へ航路(シャトル便)の復活(30分圏) 川面に舟の復活(カヌーでもボートでも) 舟・新幹線・西回り等の結節の強化 高速化の恩恵を甑島まで届かせる。
1-25	川内市	40	男	広域合併になるので、交通手段の確保を充実し老人や若者が自由に行き来出来る町づくりが必要。
1-38	川内市	32	男	人口密集地(東京、大阪、福岡、鹿児島等)との物理的距離は短縮できないが、時間距離は交通環境の整備によって短縮できる。人口密集地から離れた自然豊かな街だが、生活は便利な街が望ましい。
1-41	川内市	49	男	地域が広く、一つの自治体としての意識を持つためにも現在の市町村を結ぶ交通機関を計画すべき。
1-49	川内市	47	男	生涯を通して健康で安心して暮らせるよう福祉・都市環境等の整備と交通路の確保と拡充。地元で一生暮らせるよう市民所得の向上や各種産業の振興、就業環境をはじめとする勤労者福祉の向上
1-65	川内市	46	男	交通の結接点
1-97	川内市	39	男	車社会であることを考え、駐車場の整備が必要(特に中心部、駅周辺)だと思います。(バス等公共交通機関があまりよくないことも含めて)
2-57	串木野市	42	女	高齢者には扶助費等が多く使われているように感じるが、もっと幼児や子供達にも手厚い施策が必要だと思う。若い親が働きやすい環境を作って欲しい。(保育園、幼稚園、託児所、子ども病院)市内のすみずみまで行政の手が行き届くように声が届くように、市役所が身近でなければならない。その為には、支所や出張所等を均等に置いて欲しい。各種の届や申請(住民が頻繁に利用するもの)を出す役所が住居地から近い所になればいい。商店街をもっと魅力のある通りにして、車を使わなくても出かけられ、帰りの心配もあまり必要ないようバス等の運行も定期的に便を増やして欲しい。
2-90	串木野市	53	男	1.便利で生活しやすい住宅団地の整備 2.定年後に出郷者が帰ってきたくするような施策の充実(住宅・農地の活用、交通の整備、職場の確保)3.世代を越えて集えるような複合施設の整備(図書館、視聴覚センター、軽スポーツの施設等)
2-115	串木野市	35	男	光ファイバーネットワークを新市の隅々まで張り巡らせ、市民が一体感を実感できるIT都市とする。行政範囲が海を隔てることも考え、陸続きでなくても、いつも隣にいて話合える一体感のある和を人の心を感じることで出来る都市としたい。その手段としてITを活用する。

3-24	樋脇町	31	男	魅力ある施設等は必要だと思いますが、住み良い町づくり(公共交通機関の充実、名物になるイベント等の開催)に力を入れた方が良いと思います。当町の温泉は観光(宿泊)を中心に展開していますが、滞在型へ移行できる宿泊施設への転換が必要ではないでしょうか。
3-51	樋脇町	43	男	生活環境の充実 交通アクセス 医療体制、ゆとり施設等々
4-11	入来町	46	男	新市の中核的な役割を果たす教育施設の充実。例えば、市立の中央図書館、児童生徒の研修施設、教職員保護者の研修施設などの整備 学校におけるITの充実。学校間のテレビ会議システムの構築、中核となる教育施設との接続等、IT活用による教育効果の充実
6-5	祁答院町	39	男	都市部と農山漁村部の均衡ある発展及び交流が肝心。産業、商工業、農漁業の一体となったまちづくりを進める。対策として都市部と郡部を結ぶ交通体系の整備、地域通貨の導入、地場産業販売センターの建設等。また民間団体、ボランティア団体、NPO法人等と連携した街づくり及びこれらの人材育成も必要と考える。
6-14	祁答院町	53	男	市街地の整備(特に商店街)については、新市の顔ともなり活性化のため大切なことですが、周辺の町の住民は、今までと違い社会資本の整備に遅れがでるのではないかと懸念されるため、市街地へのアクセス道路、地域を循環する道路等の整備を、市街地の整備と平行し取り組み。地域で、誰もが身近に、いつでもスポーツ等親しめるグラウンド等の整備。福祉施設についても、今後、介護保険の利用者の増加が見込まれるため地域の自然(温泉・川・海・湖)を生かした整備も急務と考える。また、高齢化の進行に伴い交通弱者も増えてくるため、その対策を。
6-15	祁答院町	49	男	本町の商店街の現状は少子高齢化に伴い、活気のある商店は半数で、特に官公庁の取引のある商店に限っていると言っても過言ではない。更に本町は、他町に無いものがたくさんあります。[本屋][薬屋][飲み屋][花屋][写真屋][カラオケ][喫茶店][パチンコ屋][入院施設病棟]等。合併した場合は、上記のような商店ができない以上活気は無いような気がします。管内を循環するバス等の運行手段の整備がまず先決である。幸せを実感できる町として、病気、ケガの入院等は、すべて他町へ入院している。このため合併後近く入院施設の整備が急務である。
8-6	上甕村	59	男	本村は高齢者が多いので福祉的な(医療を含む)面で安心できる村であって欲しい。 甕島の住民は串木野港から川内市(鹿児島市)への交通のアクセスを今以上に良くして欲しい。
8-18	上甕村	43	男	鹿児島市への流出を防ぐため、交通基盤、産業集積、医療福祉体制の充実を図る。
11-4	川内地区 消防組合	24	男	駅・周辺の都市化
11-5	川内地区 消防組合	26	男	大企業を持ってくる 駅、周辺の活性化
11-6	川内地区 消防組合	43	男	観光地開発、駅を中心とした定期観光バスの運行 遊覧船による川内川下りから離島巡り
11-7	川内地区 消防組合	45	男	駅を介して多数の人が出入り交通の利便性を高め、人々の流通が多くなれば活気も必ず出てくると思います。そのために例えば、イベントコンサート、公演など若年層から幅広い年齢層を収容できる文化ホールなどの建設及び駅周辺や公共施設付近の駐車スペースの拡大などを。また、観光名所例えば寺山公園をレジャーランドあるいは、川内牛や名産品を売り出す、ファームランド等の計画もどうでしょうか。
11-10	川内地区 消防組合	35	男	東シナ海に面するシナなので、テーマパークランドとして海浜公園などの整備、甕島への日帰りイベントなどを計画していき観光に力を入れていけば、活性化していくのでは？ その他、生活面で道路の整備、国分市・出水市などは素晴らしい
11-14	川内地区 消防組合	50	男	住民が安心して暮らせること条件として防災機関の充実が大切である。現在の消防庁舎は敷地的に狭く職員の訓練も十分できないのが現状です。合併後は13万都市にふさわしい防災機関の拠点となる消防庁舎の建設を望む

11-20	川内地区 消防組合	26	男	新しいものばかりでなく伝統と共存できる町並み 街全体上がりラックスしやすい
11-22	川内地区 消防組合	45	男	人が集う街として大規模なイベント及びスポーツ関連団体の誘致、ドラマ、映画等(例えば「寅さん」「北の国から」等継続的に人を呼び寄せる様なドラマ)の勧誘や暴力団、右翼関係者又は使役にのみを追求するような人達を完全に隔絶・排除舌代規模名ギャンブル施設・興業の施設誘致など。また子どもたちが集まるばかりでなく大人も十分楽しめる様な遊園地の建設など既成概念にとらわれない大胆な発展でまちづくりを考えていかなければならないと思います。
11-26	川内地区 消防組合	27	男	商店街に活気が今以上に出れば、まちが盛り上がると思います。
11-29	川内地区 消防組合	48	男	合併後のまちづくりにはそれぞれの地域の特性を活かすことは当然のことであるが、現状では、あらゆる面において行政が住民を引っ張っていくいわゆる「行政からやらされている」という意識が住民には強いようである。そこで各地域にはスポーツ施設、温泉・自然・伝統行事等それぞれ自慢できるものがあるので、これらを利用して行政と連携を取りながら住民の手で企画・運営していく方法をもっと多く取り入れ住民自らがまちづくりに参加しているという意識を持たせることが「魅力あるまち」「活気あるまち」作りに必要ではないか
11-30	川内地区 消防組合	52	男	原子力発電所の安全性をPRし、監視状況を常時公表する。高齢者や子どもたちが安心して住める町 近隣住民が相互に助け合う
11-40	川内地区 消防組合	31	男	水のまちをアピールするために河川敷を使った施設や催し、また、海岸線を使った施設や催しをもっと多く取り入れたらどうか。また、レジャー施設などがあまりないので現在あるものの規模を拡張するかまたは新しいものを造ればどうか。
11-42	川内地区 消防組合	27	男	現在川内川の水を利用した噴水や時計塔などが数箇所設けられているが、人目を引くような規模ではないと思えます。川内駅も新たに建設されることもあり、駅前通りなど市外からきた人が目に付くような場所に「水の街川内」をアピールできるような大規模な施設を計画してほしい。
11-46	川内地区 消防組合	39	男	住民サービスの低下があってはならない。市街地・準市街地以外の地域、いわゆる過疎化の進む地域への影響がないように地域の集会場なり役場出張所に職員を配置し、事務を行う。
11-49	川内地区 消防組合	40歳代	男	
11-50	川内地区 消防組合	40歳代	男	新幹線が開通しても川内市は通過のまちになりそうなもので川内駅での乗降客を増やすかを考えてもらいたい。駅前の大規模な再開発が必要と思われる。今のような「ちまちま」した開発では同じことだと思う。これには、地域の方々の協力が不可欠であり、新しい市となる前に考えてもらいたい。
11-56	川内地区 消防組合	40	男	若者が集まる街づくり
11-57	川内地区 消防組合	42	男	自然と人が集まってくるようなレジャー施設等の整備
11-58	川内地区 消防組合			まちの緑地化。大きな都市に行くともちの中に緑が多い、川内ではやっと国道3号線沿いにケヤキが植えられましたが、駅前、向田児童公園等も、もう少し大きくなる木(常緑樹)を植え、ソフトなイメージを出したら
11-59	川内地区 消防組合	50	男	原子力発電所、火力発電所のある市として、川内河口大橋から開戸橋まで橋がない。あらゆる交通手段として橋の建設は必要である。 川内港からの甕島航路の再開。 企業誘致なくして進展なし。

11-68	川内地区 消防組合	48	男	先ず、第一に若者が集う施設(遊技場、ショッピング)等の設置
11-77	川内地区 消防組合	39	男	「魅力あるまち」「活気あるまち」にするためには、やはりどこの町を見ても駅周辺に遊戯場や大規模な店舗あるいはアーケード通り等がありますので駅前の整備するのがまずは望ましいと思います。
11-78	川内地区 消防組合	41	男	道路整備を実施し、各地区間の時間を短くする。例、金山峠等にトンネルを作るなど
11-84	川内地区 消防組合	19	男	全国でも有名なものを作る 新幹線が通るのでそれを活かす
11-85	川内地区 消防組合	30	男	テーマパークの建設、川内川を利用した協定収益金による経済潤沢、西回り自動車道の早期完了
11-87	川内地区 消防組合	22	男	噴水イルミネーション等がある公園を作る。大画面の情報等がながれている、テレビみたいなのを設置する。海水浴場などの活性化を図る
11-89	川内地区 消防組合	29	男	美しい海が折角あるのに海水浴場や港に活気がないのは残念です。海水浴場、港の活性化を図ってはどのようなでしょう
5	個別応募: 川内市	24	女	交通の便が悪いので、バスの本数を増やしてほしい。せめて、土日の夜にバスの便数を増やしてほしい。すると人が集まるんじゃないですか?

社会基盤 (テーマ 新市のまちづくりの望ましい姿、イメージ、キャッチフレーズはどんなものでしょうか?)

	市町村名	年齢	性別	提言
1-20	川内市	39	男	広域になるため時間的な距離の短縮
1-64	西薩衛生 処理組合	52	男	自然(海、山、川)、産業(農林水産、商工業)、観光(温泉、特産物)が豊富で交通機関や居住性の便利な町
2-120	串木野市	30	男	職員が通勤するためのバスの運行(自動車による公害対策) 合併した際、今よりも通勤距離が長くなり駐車場の確保が難しいと思う。
3-29	樋脇町	39	女	ひとと情報が常に行き交ういきいきとしたまち
3-84	樋脇町	20	女	交通の便が良く、福祉の充実したまち。人の集まるまち。鹿児島島の西の玄関口
11-4	川内地区 消防組合	24	男	川内川、港の活性化
11-84	川内地区 消防組合	19	男	もっと店を増やしてほしい
11-85	川内地区 消防組合	30	男	陸・海・空の交通開通による未来都市型の実現



社会基盤 (テーマ その他、期待するまちづくりの政策等自由なご提言(こんなまちになってほしい、こうあってほしい、子どもたちのためにこんなことをしてほしいなど))

	市町村名	年齢	性別	提言
1-20	川内市	39	男	各地域を結ぶ交通網の整備(現時点の各市町村の道路)をし、また、河川、海を利用した観光的なもので人を集められる様なスポット(観光地)等を作ってもらいたい。例(川内港 串木野港の遊覧船)
1-28	川内市	52	男	交通の確保で買物などがしやすい街づくり。(物を見て回る、買うということも大切である。)
1-75	川内市	53	女	老人と子供と一緒に学ぶ施設があったら。介護施設と保育施設と同じ敷地にあり、元気な老人から昔の遊び等を教えてもらうなど子供と老人と一緒に遊ぶ。周囲の畑には、一緒に花や野菜を植えるなど作る喜びと労働の尊さを学ぶ。現在のクルクルバスの存続をする。(温泉施設・リハビリ施設等への足の確保)市街地ばかりではいけないのでは!
2-26	串木野市	52	男	構成市町村の交流を盛んにするために必要なこととして、アクセス道路の充実を一番に検討して欲しい。国道だけでは交通がスムーズにいくとは思えないので、ネットワーク道路を整備する必要がある。例えば、荒川～川内隈之城間の県道を整備して短時間で串木野市内と結ぶためにトンネルを造るとか。長期的な計画でも良いので計画して欲しい。串木野新港を活かすために、国県に要望する必要があると思う。
2-49	串木野市	46	男	10万人以上のまちになると、やはり情報の提供などのサービスをきめ細やかにしてほしい。
2-106	串木野市	50	男	学校区等の見直しも必要ではないか。合併することで、例えば冠岳小学校に野下小の子供が来て、ひとつの小学校とするとか、野下地区の中学生が生冠中に通学する等、考えられるのでは。また、通学バスを準備する。川内市が中心となるため、川内市に何もかもあるから良いではなく、各地区(市町村)の整備を行うべきである。川内市までは時間的にも遠い、若者から高齢者自由に行けない、交通の便が悪い。各市町村に川内市と同じ規模の物ではなくてよい、小さくても良いので整えるべき。体育館、文化ホール、福祉施設等
2-115	串木野市	35	男	区域内の小中学校、各公共機関に光ファイバー網を整備し行政ネットワークを構築する。光ファイバーは、民間への貸出も視野に入れ、市民も超高速ネットワークが利用できるようにし、民間への貸出料をネットワークの管理費用にする。貸出は入札で行う。甑島との間は、現状ではNTTもデジタル無線であるので海底ケーブルも考え、一つの都市として一体感のある施策展開が必要であろう。費用は十数億とも考えられるが、インターネット接続だけでなく、遠隔医療等市民の生命を守ることも可能となる。ネットワークは道具であるが、市民の一体感を作る最適な道具である。
3-29	樋脇町	39	女	ひとやものが行き交う交流の拠点という特徴を生かし、最新の情報発信地として賑わいとやすらぎのあるまちへと大きく前進することを望む
3-32	樋脇町	55	男	市町村合併は21世紀の新しい地域づくり 住民がなおざりにならないようにIT化による新しい形での住民参加を考える。
3-44	樋脇町	47	男	高速通信網の整備(光回線等)
3-53	樋脇町	40	男	市街地や特殊性のある地域は外に向けて情報発信、入り込みや交流の促進 産業地域は安定向上をめざした施策 住民の居住環境、福祉、教育は充実
3-65	樋脇町	59	男	子供から大人まで楽しく暮らせる魅力ある新都市になってほしい。働き盛りの若者が安心して働くことの出来る企業誘致、乳幼児の保育施設の整備から高齢者が安心出来る交流施設、高齢者向けホーム施設及び公営による医療施設を各地域に整備を期待したい。旧市町村の地域差別解消のために道路網の整備を図り、交流が図られるような政策を期待したい。
3-68	樋脇町	49	男	新市庁を中心とした大規模道路網整備と旧市町からの交通手段の整備
6-5	祁答院町	39	男	既存の国際交流を発展させ、将来を担う子供達の人材育成を強化してほしい。新市の範囲が広範囲にわたるため、最新のIT技術を率先して導入し、地域イントラネット等導入し、地域情報化のまちづくりをしてほしい。 開通予定の新幹線や空港へのアクセスも良いことから、県外からは観光、グリーンツーリズム等人の交流で賑わうまち。県都鹿児島市と対抗出来る拠点都市の形成を目指してほしい。

6-9	祁答院町	33	女	バス路線などの公共交通機関の充実
6-10	祁答院町	34	男	同じ地域でありながら、臨海地区、市街区、山間地域、離島など広大な面積を抱えることから、地理的なものや伝統的なもの、あるいは方言など慣習的なものなど、特に若い世代には認識が薄いことは否めないと思います。合併はしたものの、「従前の市町村のことについてはあまり関心がない」というようなことを避けるためにも、このような情報も広報誌でシリーズ掲載するなど、広く住民に紹介して欲しいと思います。
7-9	里村	44	男	甌航路について 現在、甌航路九州商船との第三セクターによって運営されているが、新しく市が成立すると、また新しい構成による会社になる。その際新しい市は財政的にもかなりの規模になると思われるので、この新甌島商船に対し、増資を行い、現在のフェリー、高速船から、フェリー2隻によるピストン交互運航を実現して欲しい。それが無理なら、利用料金の引き下げを検討して欲しい。この航路は島の人々の生命線であるということを、充分理解・認識して欲しい。
9-3	下甌村	48	男	本土と甌島を通学、通勤圏内にできないでしょうか。
11-9	川内地区 消防組合	41	男	川内川を活用した施設を造る
11-13	川内地区 消防組合	24	男	川内駅周辺の整備
11-14	川内地区 消防組合	50	男	合併後は、体育・スポーツ施設等が充実した市になることから全市をあげたイベント等の開催が可能となることが予想される。体育施設等間のシャトルバスの運行等も利便性が向上すると思われる。
11-15	川内地区 消防組合	44	男	災害に強いまちづくりを念頭に置いて、全体的に暗視して暮らせるまちを目指してもらいたい。
11-16	川内地区 消防組合	37	男	地域活性化や市民、子どもたちの情操教育のため、音楽や踊りなどの文化事業のバックアップを強化して欲しい。 そのためには、仙台支社近隣町村で文化活動をしている個人や団体がもっと市民会館の公共施設を利用できやすいように、使用料金の引き下げや駐車場の増設、交通機関の充実等を図ってほしい。
11-18	川内地区 消防組合	52	男	中心的な町だけが発展していくのではなく、まわりの町村も同じように発展するような政策を望みます。また、川内又は串木野と甌島間の距離を感じさせないような海上輸送の時間短縮等期待します。
11-19	川内地区 消防組合			教育行政合理化への反対論 日本の教育の原点である人格を育てるためには、大人の合理主義こそが最大の妨げであると思う。今の日本の教育現場で素晴らしい教育が実践されているのはほとんど小規模校であると思う。できるだけ今の環境を守り不必要な合理化は避けてほしい。 離島観光道路の整備と航路等の充実 上甌島・下甌島を1本の観光道路で結び島の利便性を高めると共に、観光振興力を注いでほしい。(現在の県道では不十分であり、船でしか行き来できない不便さもある。)また、航路についても上島一港、下島一港の三角航路とするか、複数便
11-24	川内地区 消防組合	19	男	川内駅も大きくなるので駅付近に活気があればもっと明るいまちになると思う。
11-30	川内地区 消防組合	52	男	災害に強いまちづくり テロのないまち ゴミの不法投棄のないまち



11-43	川内地区 消防組合	52	男	中郷町の上池を中心に文化構想があると聞きましたが新幹線が開通し、運動公園下のトンネルを抜けたら“ここが川内”とすぐわかる物(例えば五重塔)等を作成してもらいたい。また、各種大会が運動公園町で行われたとき家族が訪れると思うが、近くの上池付近と整備したら家族も楽しめるのではないかと川内には市内を一望できる寺山公園があるが、天辰あたりからロープウェイ等を設置したら寺山自体も人がもっと集まるのでは
11-48	川内地区 消防組合	25	男	新田神社参道の桜をもっと充実、参道の整備 川内川河川敷に桜を植えて整備し、花見客等を集める。レジャー施設がないので寺山に遊園地等。
11-49	川内地区 消防組合	40歳代	男	新幹線がH.16念に開通しますので新幹線を利用した人口の増加はできないでしょうか？鹿児島中央駅に川内駅向きの回送列車の運賃を半額にして通勤・通学列車として利用する。 鹿児島市内の専門学校に現在多くの人が行っている。川内市内にも専門学校の誘致を。
11-59	川内地区 消防組合	50	男	子どもたち(幼年～大学生)が市外へ遊びに流出しないため、県内にない大型レジャーランドを分散化せず、一ヶ所に集中して建設する。 川内川河口からの上流への川内川を活かした公園か、リバーサイド構築、川内川でのイベント。 原子力発電所周辺への企業誘致・受託建設
11-63	川内地区 消防組合	54	男	川内川の利用拡大(外法の桜等の植栽)コスモス等 藤川天神の拡充整備
11-77	川内地区 消防組合	39	男	現在、川内市には、寺山いこいの村公園やがらっぱ公園等小さな公園はありますが、大きな施設等がないので、合併後は子供、大人が楽しめるレジャー施設を作ってほしい。また、甑島と本土は現在、船による交通手段しかないため、橋をかけるかトンネルで繋がるようにすれば、車での行き来ができより多くの観光客が増えるのではないのでしょうか。
11-86	川内地区 消防組合	55	男	年寄りや子どもの住みやすい町 JRの駅を多く作り地域の活性化を図る

**社会基盤 (テーマ テーマ ~ 欄で記入できなかった事柄等をご記入ください。)**

	市町村名	年齢	性別	提言
1-56	川内市	28	女	甑島との通勤通学の交通手段(船便)の確保、できれば島外に住まなくてもすむ安い運賃の設定は無理なのだろうか。悪天候に備えて宿舍の整備も必要。
2-107	串木野市	50	男	子供達が安心して働けるような企業がどんどん進出してくれるまちであってほしい。中心地までの到達時間を30分以内で行けるよう交通体系の整備を行ってほしい。行政が進めている事が住民にとって好ましくないと判明したら、速やかに再検討し、修正ができるように弾力的な行政にする。特に(長時間かかる大型事業等)子供をたくさん産んでも安心して暮らせる制度。子育て支援を充実してほしい。
2-115	串木野市	35	男	光ファイバーネットワーク構築は、地域イントラネット事業を利用し、国庫補助1/2 残り1/2を合併特例債を用いればその70%は交付税対象となり、実質負担の少ない効率的な事業展開を図ることができる。30億の事業としても、実質負担約5億であり、財政負担も少なくすむ。民間への貸出については、総務省においてもe JAPAN構想の中で検討中であり実施可能性は高い。
2-140	串木野市	33	男	甑島航路の再検討すべきではないか。
3-32	樋脇町	55	男	合併の際に策定される「市町村建設計画」は地域住民にとってメリット効果の高い情報に思われるので、合併関連の情報をインターネットなどで積極的に提供して欲しい。

4-1	入来町	55	男	新市が誕生したら、各市町村の人的、物的交流を進めるために色々と有効、斬新な企画で大々的なイベントを打ち出してほしい。一方、ハード面では市街地に向かう道路は整備されつつあるが、各市町村を連結する道路は必ずしも十分でないので環状線の道路として既存の道路を拡張整備して、人の往来が容易に又、活発になるよう、事業計画にとり入れてほしい。
11-3	川内地区 消防組合	36	男	市民は安全で活力活気のある町を望んでいるのではないかと思います。安全な街、警察・消防の活動が地域によって差が出てこない政策・対策をしなければならない。住民が安全で安心して生活できるまちを作り住民一人ひとりが平和な日々を過ごせるようにと思います。それぞれの町が合併することで様々な問題点が浮上することが予想されます。このことについては、遠くの火事ではなく、自分自身の事として住民が取り組む問題と思います。合併の当初の目的を考えたときよいまちづくりとは財政的にも潤うまちづくりである。地場産業を中心とした新しい産業への取り組み、企業誘致ではなく、地場企業での拡大を市で応援援助することによる市の発展を願う。広大な土地を活用した観光スポット(アミューズメントパーク)などの設立による鹿児島への中継基地としての観光の拠点を目指す。以上のような人を集める要素を常に研究する。
11-20	川内地区 消防組合	26	男	サービスの平均化、現在甑島は当該運搬の手段として甑島商船の利用、個人漁船の搬送・防災縁や海上自衛隊ヘリコプターを利用しているが天候に左右されているのが現実です。島田からの-(マイナス)面が浮き掘りになっているので、せめて本当と同じ市の一部になるわけだから、甑島列島を1つに結び(鹿島村と中甑を結ぶ藺牟田瀬戸大橋を建設)里村と下甑村のちょうど中間地に総合病院を建設して医療サービスの向上をはかってほしい
11-68	川内地区 消防組合	48	男	その他、あちこちで廃車の置き去りにしてあるのを見かけるが、景観をそおこなう。行政指導なり積極的に対処して欲しい。